

愛情豊かな

創造的文化観光都市へ

日光市新振興計画基本構想

近年の経済と社会は、昭和四十八年の石油ショックを契機に、高度経済成長から安定成長、工業開発優先から、人間性重視へと、大きく変換しつつあります。

本市では、このような複雑な社会情勢の中で、国・県の計画をみながら、直面する人口の減少、交通事情の変化、環境整備、産業振興などの問題に対処し、安全・快適・利便・創造のあるまち造りを進めなければなりません。

このため、昭和六十年年度を目標として、新たに日光市振興計画基本構想を策定しました。構想は、さまざまな市民の欲求に対応しながら、市民の福祉を究極の目的とし「愛情豊かな創造的文化観光都市」の実現を目指しています。

四つの

課題を

計画目標に

この実現を目指すにあたって、

四つの課題を、基本的な計画目標として、互いに関連づけながら、積極的な施策を、市民各層、地域ぐるみの協力を得ながら、展開していこうとするものです。

四つの課題

- ① 人間性豊かな市民像を目指して
- ② 健康で明るく生きがいのある生活を
- ③ 自然との調和がとれた住みよく美しい環境を目指して
- ④ 活力ある観光産業都市を目指して

さらに、昭和六十年年度のすがた

活力ある観光産業都市

各産業とも経営の近代化を促進し、観光面では文化財の保存に努め、隠れた文化財を観光資源に活用し、地場産業や地元観光農業などと有機的結びつきを図ります。

また、季節格差を改善するため、冬季対策として、スキー・スケート場など観光施設の整備を図り、さらに市民憲章の「観光客を温かく迎えよう」の実践、観光モラルの啓発を行っていくとしています。

農業では、農業振興地域指定に基づき農用地の確保、農業経営と農地の集団化や観光農産物の育成栽培などを推進し、農業の振興を図ることにしています。
林業では、経営規模の拡大、森林施業計画の策定、生産基盤の整備や、機械施設の高度化をとおして、林業経営の安定化を図ることにしています。
工鉱業では、公害問題を配慮し

人間性豊かな

市民像

として、人口は二万五千二百人と推計、観光面では、週休二日制の普及などで、余暇時間が増大し、自家用車の普及がさらに進み、必然的に観光レクリエーションの需要増加となり、昭和六十年年度の入込観光客は、一千万人に達すると推計されます。

教育文化の向上を図るため、幼

健康で明るく

生きがいの

ある生活

児・義務教育などの施設の整備、父兄の教育費負担の適正化、自然と親しみながら人間形成を図る屋外活動施設の整備、スポーツ・レクリエーション活動の促進による連帯感の盛り上げなど、社会教育面における生涯教育をより充実していくことにしています。

社会福祉の向上を図るため、老人の社会活動参加を促進し、心身障害者への援助の充実、年金・医療制度の改善、母子世帯医療の公費負担強化、ボランティア活動の促進、成人病対策、医療従事者の確保、食生活の改善など保健衛生思想の高揚に努めるなどとしています。

住みよく

美しい環境

秩序ある市街地形成のため、都市計画事業の推進をはじめ、小倉山周辺の整備、市街地に隣接する山林、原野などの効率的土地利用を図ることにしています。

また、市民生活の連帯感、地域社会造りなど、コミュニティの推進を図り、さらに、数多くの観光客を、受け入れるため、交通体系の抜本的見直し、通信体系の整備、水利用の面では、上水道未設置地区の解消や、既設水道の改善を進め、下水道施設については、中宮祠・湯元の改良、県二市一町で行う、鬼怒川上流々域下水道の進行に合わせ、市街地について、公共下水道の整備を図ることにしています。

融資額の増加を図っていくこととしています。

× × ×
以上のほか、市民との対話の中で進める市政をはじめ、常に事務処理の合理化、長期的視野にたった健全な財政の維持はもちろん、これらの施策を、お互いに関連づけをしなが、昭和六十年年度の目標に向って、市政の最も総合的、基本的な姿勢として、さらに基本計画、実施計画に基づき具体化していくこととするものです。